

プラスチックごみを減らそう

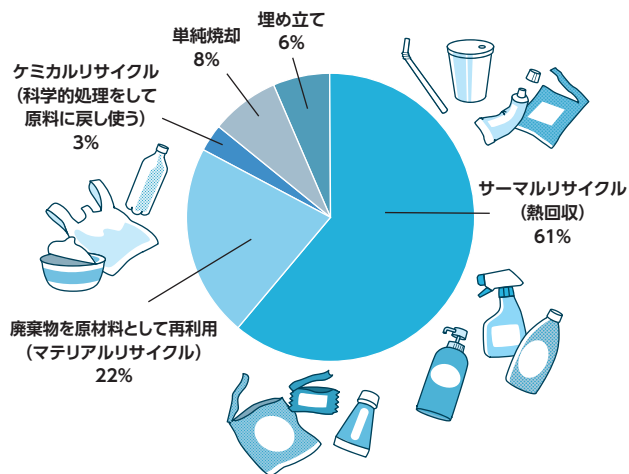
プラスチックごみの現状

今あなたが使っている生活用品に、プラスチック素材のものはどのくらいありますか？

軽くて丈夫で安価なため、プラスチックは生活に欠かせない素材となっています。その利便性から、大量に生産、消費、廃棄されるため、プラスチックごみによる環境汚染や、生産から廃棄の過程で発生するCO₂による地球温暖化、限りある石油資源の消費など、さまざまな問題が起こっています。

日本のプラスチックごみ排出量は約850万トン(2019年)、うち約40%が使い捨てプラスチック容器です。これは1人当たり年間32kgを排出しており、アメリカに次いで世界第2位の多さです。プラスチックごみの有効利用割合は約85%ですが、焼却して熱を回収するサーマルリサイクルが約60%を占めています。プラスチックの素材としての再生利用は約20%で、そのうちの40%は海外に輸出されています。

プラスチックごみの処分方法
(2019年 約850万トン)



出所：一般社団法人プラスチック資源利用協会
「2019年プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」

深刻な海洋汚染

プラスチックごみの海への流出は、毎年約800万トンです。現在1億5千万トンが海にあると推定されており、海洋生物や鳥が餌と間違えて捕食するなど、生物の生命を脅かしています。また紫外線などで劣化し5ミリ以下になったマイクロプラスチックを海洋生物が取り込み、食物連鎖を経て人間の体内にも存在すると考えられており、影響はわかり知れません。プラスチックは自然分解に長い時間がかかり、たとえばペットボトルで400年以上といわれています。このまま何も手を打たなければ、2050年には海の中のプラスチックごみの量は、海洋の魚の全重量を超えると推測されています。(エレン・マッカーサー財団の研究報告)



まずは“減らす”こと！

日本ではプラスチックを減らすための取組みとして、2020年、レジ袋が有料化され、プラスチックごみ減量の意識が高まっています。2021年6月には「プラスチック資源循環促進法」が成立しました。製品の設計から廃棄物処理までの資源循環などの取組みや、プラスチックの代替素材の開発が進んでいます。

私たち消費者は、日頃から「このプラスチックは必要か？代替できないか？」と意識し、プラスチックごみを減らすために行動することが求められています。

行動の例

- エコバックを持ち歩く
- お菓子は個包装のものを選ばない
- 使い捨て容器を減らす
- マイボトルやマイカトラリー(箸やフォーク)を携帯する
- 野菜は裸売りを選ぶ
- ボディソープをプラスチック容器不要の固形石けんにする